

野呂山再整備基本構想（素案）について

野呂山再整備基本構想（以下「基本構想」といいます。）については、令和5年度から、野呂山関係機関・国（環境省・林野庁）・広島県（自然環境課）・呉市・地元関係者で構成する「野呂山検討協議会」を設立し、策定に向けて意見交換を行い、野呂山の各施設をその役割ごとに区分けしたゾーニング案や、野呂山エリアのポテンシャルについて協議してきました。

また、再整備に当たっては民間活用による整備を目指し、昨年度は民間事業者等に広く意見・提案を求め、市場性の有無や民間アイデア等を把握するための調査を実施しましたが、民設民営による事業参画の具体的な提案はありませんでした。

これらの進捗については、令和6年11月及び令和7年2月に行政報告をしています。

今年度は、昨年度の調査結果を踏まえ、野呂山における宿泊、飲食、物販施設等の利用拠点について、民設民営による事業の可能性を更に深掘りすることを目的に、民間事業者ニーズ継続調査、ヒアリング及び現地を案内するモニターツアーを実施しました。

この度、民間事業者ニーズ継続調査の結果と、野呂山検討協議会で出された意見を基に「野呂山再整備基本構想（素案）」を作成しましたので、今後の方向性と併せて報告します。

1 基本構想策定の経緯

野呂山は、昭和25年に瀬戸内海国立公園に指定されており、山頂からの眺望は、瀬戸内海の多島美を始め、しまなみ海道や四国の石鎚連峰など素晴らしい景色がたんのうできる屈指のスポットとして知られています。

一方で、野呂山山頂エリアにある国民宿舎野呂高原ロッジ（以下「野呂高原ロッジ」といいます。）や野呂山ビジターセンター、野呂山レストハウス、野呂山セントラルロッジ、野呂山キャンプ場を始めとした各施設は開設から56年以上、川尻筆づくり資料館は開設から約40年が経過し、施設の老朽化や多様化する観光客のニーズに対応できていない状況が見られるようになってきており、野呂山の魅力向上に向けて再整備が必要となっています。

そのため、今の時代にふさわしい再整備を行い、地元住民・観光客でにぎわう野呂山を目指し、施設外の園地も含めて、野呂山山頂エリア全体で、実現可能な事業（以下「事業」といいます。）の調査・検討をし、基本構想を策定するものです。

2 民間事業者ニーズ継続調査の実施概要

(1) 実施方法

- ・株式会社帝国データバンクの企業データ等を用いて抽出した民間事業者 55 社に対して、アンケート調査を実施
- ・上記の対象事業者に対してアンケート調査票を郵送するとともに、呉市のホームページに調査内容を掲載

(2) 対象事業者

同種事業の参画実績等の客観的なデータに基づき、事業への参画の可能性が想定される事業者を抽出しました。

区分	件数
広島県でホテルの開発又は運営を行っており、かつ、リゾートホテルの開発又は運営の実績がある事業者	
中国地方でホテルの開発又は運営を行っており、かつ、リゾートホテルの開発又は運営の実績がある事業者	41 社
複数の地方でホテルの開発又は運営を行っており、かつ、リゾートホテルの開発又は運営の実績がある事業者	
中国地方でキャンプ場又はグランピング施設を運営している事業者	14 社

(3) 調査スケジュール

日程	内容
令和7年7月22日	<ul style="list-style-type: none">・アンケート調査依頼開始・調査内容の公表（市ホームページ掲載開始）
7月22日～8月8日	<ul style="list-style-type: none">・回答受付
8月 9日～8月下旬	<ul style="list-style-type: none">・アンケート調査結果の取りまとめ
9月上旬～	<ul style="list-style-type: none">・事業への参画に興味を示した事業者へのヒアリング

(4) 調査内容

野呂山エリアの魅力やポテンシャル、事業のアイデア、事業への参画意向や要望等について調査を行いました。

(5) アンケート調査結果 ※6社から回答あり

設問		調査結果・主な意見
エリアの魅力やポテンシャル		<ul style="list-style-type: none"> ・魅力があると評価した事業者が比較的多く、瀬戸内海の多島美が眼下に広がる景色、周辺の自然環境の豊かさ、避暑地として選択される可能性があるという意見があった。 ・一方、「現状の施設では非日常感や魅力に欠ける」との意見があった。
民設民営による 事業アイデア	宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> ・「非常に興味がある」（1社／A社）、「興味がある」（1社／B社）、「興味が無い」（3社）、「無回答」（1社）との回答があった。 ・「非常に興味がある」、「興味がある」と回答したA社・B社とも既存施設の改修を想定。また、宿泊施設内に一般利用が可能な飲食・物販機能を導入することについては、「条件によっては可能」（A社）、「不可能」（B社）と回答が分かれた。 ・興味が無い理由として、「当社のホテルの運営形態に合わない」、「高単価な宿泊が望めない」といった意見があった。
	飲食・ 物販施設	<ul style="list-style-type: none"> ・「非常に興味がある」（1社／A社）、「興味が無い」（4社／B社を含む。）、「無回答」（1社）との回答があった。 ・「非常に興味がある」と回答したA社からは、レストラン・ロッジ・キャンプ場といった既存施設の改修を想定するという意見があった。 ・興味が無い理由として、「野呂山の認知度が低く需要を見込むのは難しい」など事業性に対する意見があった。
参画意向や要望等		<ul style="list-style-type: none"> ・民設民営の可能性については、「参画したい」（1社／A社）、「参画は難しい」（5社／B社を含む。）との回答があった。 ・公設民営の可能性については、「参画したい」（1社／A社）、「条件によっては参画したい」（1社／B社）、「参画は難しい」（3社）との回答があった。 ・参画が難しい理由として、「改修費用の捻出が難しい」、「周辺での出店実績が無いため参入リスクが大きい」、「収益性に対する懸念がある」などの意見があった。

3 民間事業者へのヒアリング結果

(1) ヒアリングの概要 ※1社に対して実施

項目	内容
実施日	・令和7年9月9日（火）
実施企業	・民間事業者ニーズ継続調査で、民設民営での宿泊施設の整備・運営に「興味がある」と回答した事業者（B社） （「非常に興味がある」と回答したA社については、その後具体的な提案無し）

(2) ヒアリング結果（B社の意見）

- ・野呂高原ロッジの改修のみを想定しているが、独立採算での整備・運営は難しく、改裝や運営への補助がないと厳しい。
- ・仮にB社が運営する場合は、冬場の閑散期や予約が入っていない場合は閉館し、コストを削減する。

4 モニターツアーの実施

(1) 実施目的

- ・民間事業者に現地（野呂山）を案内し、対話を通じて実現可能性のある提案や様々なアイデアを頂くことを目的として実施

(2) 募集方法及び実施状況

募集方法	応募・実施状況
令和6年度のヒアリング実施企業（9社）に対して募集案内を送付	2社から応募あり、実施済み（7月23日／エリア全体を見学）
民間事業者ニーズ継続調査の対象事業者（55社）に対して参加意向を確認	2社から参加意向あり ・うち1社（B社）については実施済み。頂いた意見は、上記3-(2)「ヒアリング結果」に同じ（9月9日／野呂高原ロッジのみ見学）。 ・残り1社（A社）については、その後具体的な提案無し
市ホームページにて、モニターツアー参加の募集案内	応募無し

(3) モニターツアー結果

※7月23日にエリア全体を見学した2社から

主な意見	
エリア全体について	<ul style="list-style-type: none"> 島めぐりやトレッキング、店舗めぐりなど、暮らすように旅するのに適した場所だと感じた。野呂山の再整備も、野呂山だけで完結させるのではなく、市全体をふかんし、山・街・海を連携させていくことが重要である。 <u>子どもたちが使えるような施設を残していくとよいと思う。</u>子どもを中心に据えることで関係者の心も一つになる。ただ、周辺市でも子ども向け野外活動施設のリニューアルや新規整備が進んでいるため、競合しないよう独自のポジションを取りながら再整備を行う必要がある。 日本には自然が豊かで景観が良いところが多い。差別化が重要。野呂山に来てもらうためのストーリーが必要であり、弘法寺があるというのは差別化を図る上で強みになると思う。
各サイトについて	<ul style="list-style-type: none"> ビジターセンターの役割が非常に大切。呉市に何があり、どのような魅力があるのかを伝える役割を担い、映像・動画・セミナーなど、来訪者の次の行動やプログラム参加につながる拠点となることが必要である。 エリア内にはアップダウンがあるため、夜間を含めて事故が起きないような仕組みやアプローチが必要である。
事業アイデア・手法	<ul style="list-style-type: none"> ビジターセンターを改修してカフェを設置し、氷池ではカヌー、SUP等の水上アクティビティを展開する（建物下階は格納倉庫、上階はカフェとして活用）。 現在のアウトドアニーズを踏まえ、キャンプ場のサイト構成の見直しや夜間照明の整備を実施する。 かぶと岩展望台から星降る展望台までを結ぶジップラインを設置する。 子どもが遊ぶだけではなく、大人もハンモックのようにリラックスして過ごせるネット遊具を整備する。 眺望が優れるかぶと岩周辺に宿泊施設を集約し、建物下階では低廉な料金で提供、眺望が良い上階は高付加価値の貸し部屋のような形で提供する（上階での売上げを、下階の維持管理費へ還元する新たなモデルを構築）。 <u>小さくスタートさせて、やりながら修正していくようなやり方が想定される</u>（例：まずビジターセンターとキャンプサイトを改修、など）。

5 野呂山検討協議会の実施状況と主な議題

	開催日	主な議題	内容
令和5年度	第1回 R 5. 12. 20	・現状と課題 ・野呂山への思い	・野呂山の現状について意見交換。各施設の老朽化や森林の生長による景観の悪化などの課題を共有
	第2回 R 6. 3. 14	・現地確認（野呂山の景観） ・基本構想業務内容の確認	・野呂山での現地確認。景観（木の伐採）・夏場の水不足など課題を整理 ・プロポーザルを行う基本構想策定業務の説明
令和6年度	第1回 R 6. 8. 9	・基本構想概要案の検討 ・民間事業者ニーズ調査	・基本構想の概要案について意見交換。エリアの整備方針として、3案を整理
	第2回 R 6. 10. 11	・基本構想の方針案 ・意見交換	・各エリアの再整備案の説明と課題・概算事業費などの整理 ・基本構想の方針案について意見交換。ターゲットの設定やゾーニング案、野呂山周辺の地域コンテンツについて協議
	第3回 R 6. 12. 23	・民間事業者ニーズ調査結果 ・引き続き民間事業者に提案していく案	・調査結果の報告 ・これまでの協議会で出た案とニーズ調査結果を踏まえ、2案にまとめた構想案を説明
令和7年度	第1回 R 7. 4. 21	・民間事業者ニーズ継続調査及びヒアリング調査・モニターツアー	・引き続き民間事業者参画の可能性を探る調査を行う旨を説明
	第2回 R 7. 10. 10	・民間事業者ニーズ継続調査の結果 ・調査を踏まえた基本構想（素案）の説明	・調査結果の報告 ・モニターツアーでの事業者からの提案 ・基本構想（素案）について、生物多様性への配慮や実現に向けての期待などの意見あり
	第3回 R 8. 1頃（予定）	・基本構想（案）を市に提案	

6 野呂山再整備基本構想（素案）の内容

(1) コンセプト

コンセプト①

子どもたちが自然とふれあい、身体的なアクティビティを体験することで、探究心を育む学びと成長の空間を創出

- ・新しい人流の開拓として、子育て世代にアプローチ
- ・子どもたちが野呂山の雄大な自然の中で声を出して走り回り、様々な体験をすることのできる環境を整備

コンセプト②

ステップ1とステップ2の2段階に分けた整備（段階的整備）による野呂山への新たな人流の開拓と民間企業参画の可能性の追求

- ・ステップ1では野呂高原ロッジエリア以外の各施設を先行して整備し、新しい人流とにぎわいを創出したのち、新生野呂山にふさわしい野呂高原ロッジエリアとして再整備を行う。
- ・ステップ1で行う再整備により野呂山の観光地としての魅力を向上させ、民間事業者参画の可能性を高める。
- ・最初に全ての計画を作るのではなく、段階的にステップを踏んでいくことで、時代と環境の変化に対応する。

ステップ1：ビジャーセンターの改修

かぶと岩展望台（星降る展望台）の改修（レストハウスは廃止）

キャンプサイトの改修（セントラルロッジは廃止）

野呂高原ロッジエリアのリフォーム



ステップ2：野呂高原ロッジエリアの再整備

(2) 各エリアの再整備方針（段階的整備／ステップ1）

・ビジターセンター／【改修】

野呂山における交流と情報提供の拠点として、訪問者に快適な空間を提供する。

（例：カフェスペースの整備、氷池での水上アクティビティなど）

・かぶと岩展望台（星降る展望台）／【改修・レストハウスは廃止】

野呂山の壮大な景観を楽しめる場を提供し、野呂山観光の目玉としての価値を高める。

（例：展望スペース及び休憩スペースの整備など）

・キャンプサイト／【セントラルロッジは廃止（受付機能はビジターセンターに集約）・簡易な倉庫を新設】

自然の中での宿泊体験を提供し、アウトドア愛好家にとって魅力的なスポットを創出する。

（例：キャンプサイトの充実、設備の更新など）

(3) 各エリアの再整備方針（段階的整備／ステップ2）

・野呂高原ロッジ（筆づくり資料館）／段階的整備（他の三つのエリアの再整備後に実施）

ステップ1では野呂高原ロッジエリア以外の各施設を先行整備し、野呂高原ロッジは小規模リフォーム（壁紙、照明等）を行う。その後、ステップ2として、新しいにぎわいが生まれた野呂山にふさわしい、野呂高原ロッジエリアとして再整備を行う。

理由①新しい人流の開拓

他の3エリアの再整備により、新たな客層を開拓するとともに、特に子どもがのびのび遊べる新しい野呂山として子育て世代にアプローチし、ファンを増やす。

理由②民間事業者参画の可能性拡大

先行整備によって観光地としての魅力が向上することで、民間企業が新たなビジネスチャンスを見出せる環境を提供する。

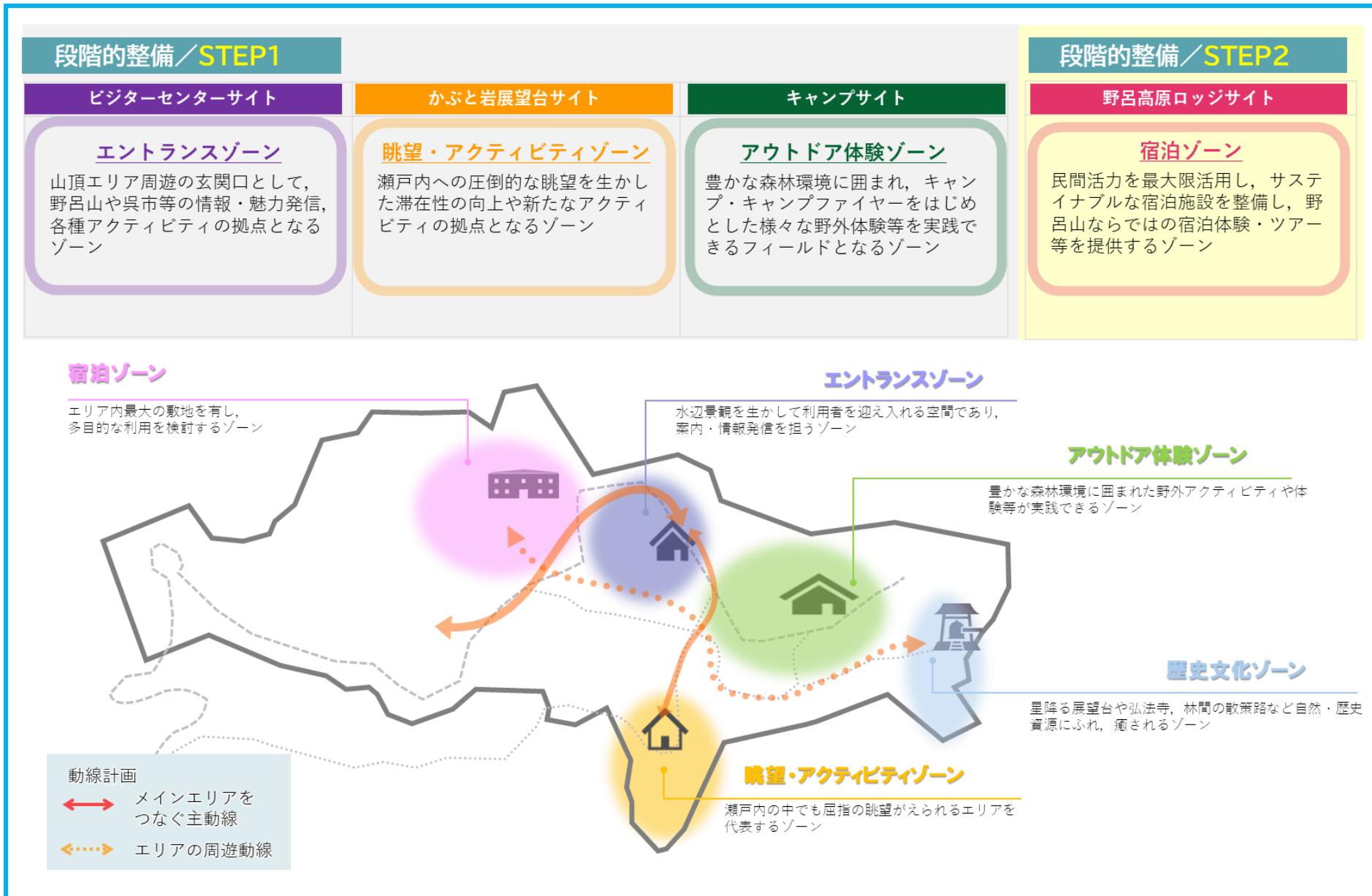
理由③野外活動など既存の機能を継続

ステップ1の再整備中も、現在多くの利用がある子どもたちの野外活動などについては、その機能を継続し、野呂高原ロッジと併せて筆づくり資料館についても引き続きレクリエーションや研修機能の提供を続ける。

理由④時代の変化と環境の変化への対応

ステップ1の再整備工事中にも刻々と変化する時代の流れや野呂山を取り巻く環境の変化に柔軟に対応し、子どもたちの笑顔があふれる新しい野呂山に生まれ変わった後、ステップ2としてその姿にふさわしい野呂高原ロッジエリアとして再整備を行う。

(4) ゾーニングイメージ



7 事業実施の手法

野呂山の再整備を進めていくに当たり、その事業手法としていくつかのパターン（民設民営のほか、公設民営による指定管理やPFI等）が考えられます。どの手法で実施するかについては、次年度以降、「野呂山再整備基本計画」の策定作業と並行して検討します。

8 今後の方向性

基本構想（素案）はあくまでビジョンを示すものであり、今後はここから更に計画の実現性・予算規模・整備後の運営等について次のとおり検討していきます。

- (1) 基本構想（素案）を基に基本構想（案）を作成し、令和7年度第3回野呂山検討協議会（令和8年1月開催予定）で意見を伺ったのち、令和7年度末に基本構想を策定します。
- (2) 令和8年度はより具体的な事業スケジュールや各施設の機能、概算工事費などを整理した「野呂山再整備基本計画」を策定します。その後、工事施工に向けた詳細な設計書となる「野呂山再整備実施計画（設計）」を策定ののち、実際の工事施工を行っていきます。

9 今年度のスケジュール

